

さて、リトル・スター・レストランには、実はビール部長がいます。一年半かけて北半球を一周した経験のあるビール部長(okayan)は、根からのビール党。季節ごとに、世界のあちこちで、様々なビールを飲みました。世界中で、季節にあわせて、様々なビールが飲まれていることを目の当たりにしてきたわけです。

というわけで、今月からは、季節にあわせてビール部長が選んだ、輸入ビールをお楽しみいただけます。定期的に銘柄は変更されますので、お楽しみに！ それでは、今月のビール紹介を、ビール部長から。

夏らしい輸入ビール、
はじめました。

毎新聞 ごはん

第 2 号

004 年 7 月

発行者
リトル・スター・レストラン
www.little-star.ws

インターネット無線スポット



あります。

あります。

コロナ・エクストラ
(メキシコ)

サンミゲル・ペール・ピルゼン
(フィリピン)

サイゴン・エキスポート（ベトナム）
蒸し暑いサイゴンは、なにを食べておいしくつてホントに食べるのが樂みでした……つておなかも壊したけど（笑）。春巻きでもつつきながら、南国独特のくせのある風味をお楽しみ下さい。

こんにちわ。ビール部長の okayan です。今回は初回ということもあって、字 番から旅のうんちくものまで、わりとガ ランスを考えて4重頭立てでメモ。

小星人語

▼昔、一年に一度は友人とケーキバイキングでかけていました。定額で好きなだけケーキを食べられることは、とても魅力的でした。時間制限がある場合もありますが、今では信じられない。

Little Star Restaurant

ビ ルの3階、エレベーターを上がったところにあるリトル・スター。レストラン。古いエレベーターや煉瓦色のビル、隠れ家のような雰囲気は気に入っているのですが、よくお客様の中の様子がよく分からなかつたので、入ってみようと決断するのに時間がかかった」と言われます。3階まで来ていただければ、中の様子がよく分かる、古いガラスが味わい深い引き戸がお出迎えするのですが、その前にお店の雰囲気を知りたい、という方のために、今回はお店の中の雰囲気を紹介します。



お店のことを、
もっと知りていただきたい。
Little Star Restaurant
よく見て、ただく「コーナー」です。

お昼ごはんは、午後からの活動のためのエネルギー補給にいらっしゃるお客様が多いようです。お店の雰囲気も、照明を明るくして、活気のある食堂のようなイメージ。もちろん、のんびりランチのお客様も大歓迎。休日ランチはゆっくりめのお客様が多くなります。ランチビールのお客様も。

ティタイムは、当店の穴場的時間帯。はつきり言つて、とても空いております(今のところ)。ゆっくり、まつたりしたい方に大変結構な環境かと思われます。当店のスタッフは本好きが多いので、お気に入りの本を店内に飾つてあります。どうぞ自由に手にとって、時間を忘れて読書などいかがでしよう。お持ちのノートPCなどで、無料インターネット接続も出来ます。おいしいお茶とケーキがお供、おかわりは半額にて承ります。



夕方からは照明を落として、落ち着いた雰囲気に。一日の終わり、ゆっくりとお食事をしていただけます。日本と世界のビールはもちろん、利き酒師が選んだ日本酒や焼酎、ワインや洋酒もご用意しております。お子様連れのお客様が「大丈夫ですか?」といらっしゃることも多いですが、お子様用の椅子もご用意しております。本当に小さなお子様にはソファ席がおすすめ。バーもお席に置いていただけます。

今

回は、「ごはん」のお話です。「ごはん」と言つてもこの新聞のことではありません。そう、お米のことです。リトル・スター・レストランは、レストランと名乗つてはいますが、食堂、喫茶店、ダイニングバーなど時間によって表情を変えるお店です。

それでも、「レストラント」と名乗つたのは、まつとうな、手をかけて作った食事が出来るお店だということを知つていただきたかったという気持ちもありました。

食事といえば、日本人ならまず思いつくのが「お米」。これが「お米」。これはずせません。主食といいくらいですから、食事の主役はごはんです。このごはんがおいしくなくちやあいけない。

料理人ミヤザキは、お店を始める一年ぐらい前から炊飯器を使わなくなりました。仕事の関係で、ごはんがおいしく炊けるという土鍋「かまひきん」をいたいたことがきっかけでした。きちんとお米をとぎ、浸し、ガスで炊いたごのおいしいこと、炊きあがったときごはんの表面にちいさな穴(くぼみ)のような

小さな星のごはん、 小さなこだわり。



vol.01

精米したてのお米、 五分づきのごはん。

はんの表面にちいさな穴(くぼみ)のようなができるのがおいしい証拠です。電気炊飯器ではお目にかかる美しい炊きあがりに感動しました。それからは、お米ストラント名乗つてはいますが、食堂、喫茶など時間によって表情を変えるお店です。

お米でなくとも、玄米を精米器で精米し

た、精米したてのごはんはおいしいこと

にも気づきました。

玄米や半分だけ精米したお米の、囁めば囁むほど出てくる旨味にも。

お店を始めるにあたって、絶対に譲れなかつたのが、ガス炊飯器と精米器の導入でした。リトル・スター・レストランでは、毎朝お米を精米し、ガスで炊いています。出てきた糠(ぬか)は、料理長のぬか床にも活用されます。精米は五分づき、半分だけ精米して、お米本来の味と栄養を残すようにしています。お米が少し黄色っぽいのはそのせいです。

ちなみにお米は、スタッフの okayan の育つた山間の町でどれた玄米を使っています。ぜひ、よく噛んで食べてみて下さい。

木のソムリエ

宮崎麻美
asami miyazaki
稗島ゆう子
yuko hechima

★今月のお題★
せつない恋

テーマに応じたお薦めの本を紹介する「木のソムリエ」。今月は七夕の織姫と彦星の恋にちなんで、「せつない恋」をテーマに選びました。



『白い薔薇の淵で』
中山可穂 文春文庫集英

hishima's choice



『虫』
村上春樹 新潮文庫

miyazaki's choice



『デューク』
江國香織 講談社文庫

fukazawa's choice

四六時中恋焦がれている。他のことも考えたいのにままたならない。そんな苦しい夜、胸の内に風穴を開けてくれるのは自分と同じ境遇の人間の存在で、本書はその役割を果たすのにぴったりだ。「わたし」は同性でありながら死に近いぎりぎりのところで生きている墨にどこまでも惹かれていく。静かな筆致で時にはユーモアを交えながら語られる恋愛小説。

もしも雲の上の人がたなら、もしも友達だったなら、違う結果があつたかもしれない。見えているのにそばにいるのに、叶わない恋。恋のかどうかも分からなくなってしまうような、静かな想い。口に入れば溶けてなくなる、触ればべたつく、綿飴のようにもどかしい恋。かの「ノルウェイの森」のもうなつた短編。短いから、せつない。

ボケツにひそませておきたい本というのがある。「デューク」もその一つ。他の短編とともに一冊の本に納められていたが、後に単独で再販された。文庫より少し大きめのハードカバー。手にぴったりとすいつくように、内容も心にきゅっとすいてくる。読むと胸が締めつけられるような気持ちになり、涙が出そうになる。何度も同じように。

旬な話

太鼓の立役と百鬼、百より

ちよのオリジナル
うるわしよがわ
いいこづか。
こがめりこーぐん。



④

行く。夜店を見て回り、お
小遣いの中で買えるものを
厳選する楽しさ。お手本の
先生を見ながら踊る楽しさ、
難しい振り付けが出来たと
きのうれしさ。高いやぐら
に太鼓をたたくために上つ
ていく人を、尊敬のまなざ
して見つめたことも覚えて
います。けれど大人になり、いつの頃から
か盆踊りに出なくなり、そのうち実家を出
て別の街に住み、盆踊りのことも記憶の片
隅へと追いやられてしましました。

しかし「昨年、祖母が楽しみにしているか
ら、久しぶりにみんなで盆踊りに行こうと
いうことになりました。浴衣を着て、いつ
もの公園に行くと、そこには記憶とは違う
盆踊りがありました。高かつたやぐらは低
いステージにかわり、踊る人の輪は二重に
なるのがやつとのよう。子供たちは夜店に
群がり、踊っているのは踊りの先生とその
関係者といった具合。「このままじゃ盆踊
りとは言えない!」ふだんは食い気の勝る
私も、思い出の盆踊りの危機に一念発起、
夜店を後目に家族みんなを盛り上げ、踊り
の輪に加わったのでした。

* 土・日曜日は十二時からの営業となります。
* 曜日のラストオーダーは三時半です。

営業時間 十一時半～二四時半
(フードラストオーダー三時)
(ドリンクラストオーダー四時)

定休日 毎週月曜日



■ インターメーション

■ 営業時間・定休日が決まりました。

お店のオーブンから一ヶ月。遅ればせながら、営業時間と定休日が決まりました。

リトル・スター・レストランの看板の鉄部
分を作ってくれた鍛冶屋さん、中澤恒夫氏
の作品をお店に展示しています。店内の壁
に作りつけた棚の金具も中澤氏のお手製、
オリジナルです。ドイツ、スイスで修行し
てきた中澤氏の帰国後初の展示、見逃せま
せん。丹念に仕上げられた鉄のあたたかな
風合い、複雑な色味。ぜひご覧下さい。

■ 中澤恒夫展 ～七月三二日まで
編集後記

「毎月新聞」、小さな新聞ですが、作るのは
一苦労。色々考えながら作っております。
一日には間に合いませんでしたが、なんとか
発行できました。さ、すぐ次の号の準備を
しなきや! 記事のリクエストなどあります
たら、お気軽にスタッフまで。(宮崎)
少しずつ、自分たちらしいデザインに変わ
ってきてはいるんですが、まだまだこれからで
す、なにもかも。ハイ。(お)

先日、家の近所を歩いていたら、どこから
か太鼓の音と独特の音楽が聞こえきました。
「練習かな?」と思いながら太鼓の音
に誘われるよう歩いていくと、練習では
なく本番、少し早めの盆踊り大会がお寺の
境内で開催されていました。幼稚園を併設
するそのお寺では、夏のイベントとして少
し早めに行なつたのでしょうか、「親子盆踊
り大会」と横断幕が掲げられていました。
夜店などは出ておらず、小さなやぐらを囲
んで、子供たちと親御さんたちが和気あい
あいと踊っているのが見えました。夜店を
期待して歩いていた私は残念。そのまま
夕飯を食べに出かけたのでした。

私が育った地域では7月の終わり、学校
が夏休みに入つてすぐのころが盆踊りの
シーズンでした。広い公園の中央に高いや
ぐらが建ち、二重三重の円を描いて踊りま
す。大人も子供も一緒に踊る。知らないお
ばさんやおじさんとも仲良くなれる。夜遅
くまで外を出歩いていい盆踊りの日は、子
供だった私にとって特別な日だったのでし
た。浴衣を着せてもらい、友達と盆踊りに
踊りたくなるかもしれません。

(宮崎)

